

埋もれがちな郷土の物産を掘り起こし、大いに売りこんで不況を吹き飛ばそう。と一月二十九日から高知大丸で、清流物部川のふるさとの味まつりと題して開かれた香南市町村の観光と物産展。それぞれの市町村から郷土色豊かな特産品が多数出品。南国市からも、へんろ石まんじゅう、けんぴ、竹製品(立田)、スイカ(西島)植木(左右山)をはじめ、市内の園芸野菜など約二十点が出品された。安い値段、製造実演もあって売れゆきは好調。はじめてのこの物産展は大当り。今後もこんな催しをと——関係者は意欲満々。



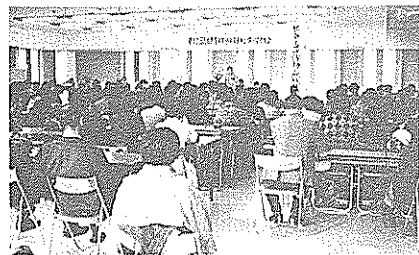
一月二十九日の初日に、会場入り口でテープカットをする関係市町村の代表者たち。



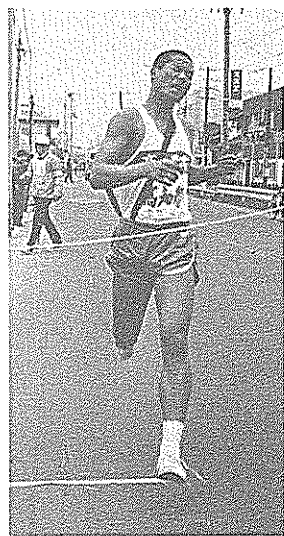
また、物産展の会場に設けられた舞台では南国おどりなどの郷土民謡が披露された。



今年で15回目を迎えた市連合婦人会による市政会議。財政問題、空港問題、同和問題など南国市のかかえる問題を話し合った。



青少年が心身ともにすこやかに成長するようにと——青少年の非行防止のための健全育成活動にセンターママは日夜努力を続けています。(高知県青少年補導センターママ大会)



二月一日に行なわれた第十四回南国市農協訪問駅伝競走。市内各農協を結ぶ十区間、五十三、四キロのコースに二十二チームが参加して力走がくりひろげられた。

■一般の部

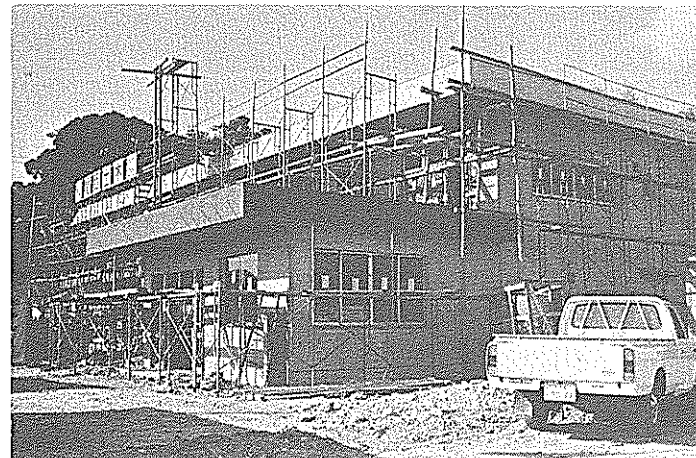
①ミロク・2時間57分52秒 ②協和農機・3時間4分55秒 ③三和農協A・3時間6分28秒 ④瓶岩体育会・3時間9分45秒 ⑤十市

■高校の部

①高知農業B・2時間50分53秒 ②高知農業A・2時間55分7秒 ③高専陸上部・3時間20分28秒 ④高専水泳部・3時間23分59秒

■中学の部

①香長中A・3時間3分53秒 ②北陵中A・3時間14分30秒 ③北陵中B・3時間23分2秒 ④香長中B・3時間23分3秒 ⑤香長中C・3時間23分32秒 ⑥県立希望ヶ丘学園・3時間29分0秒 ⑦北陵中C・3時間29分25秒 ⑧高ヶ池の中B・3時間33分38秒 ⑨高ヶ池の中A・3時間39分59秒



## 入所難の“救世主” 120人の児童収容

### 入所選考・保育料 市立の保育所と同じ

昨年十月から大浦の大徳寺(地図参照)ですすめられていた私立吾岡保育所が近く完成する。この保育所は社会福祉法人・大浦福祉協会(佐竹弘光理事長)が建設していたもので、鉄筋二階建て、延べ六三七・一九平方メートル、地一・二五〇平方メートル、総事業費約七千七百万円。

吾岡山を背に日当りのよい絶好の場所。ことし四月から百二十人の児童が入所する見込みだ。私立とはいえ社会福祉法人のため、すべて国の基準があてはめられる。そこで、市ではこの設計・資金調達など建設計画を援助。同協会が借り入れる四千四百万円余の損失保証などもしている。経営主体は同協会のものだが、入所の選考・保育料の決定などは市立の保育所と全く同じで、現在市の福祉事務所が入所の選考事務をすすめている。

協会が借り入れる四千四百万円余の損失保証などもしている。経営主体は同協会のものだが、入所の選考・保育料の決定などは市立の保育所と全く同じで、現在市の福祉事務所が入所の選考事務をすすめている。

定員オーバーの申し込み者

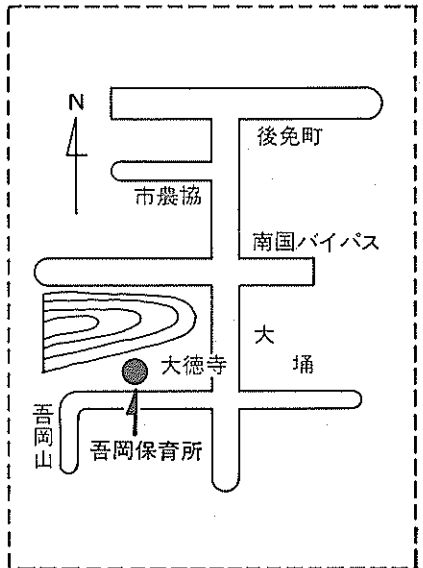
ことし市全体で保育所に入所を希望している児童は約一千七百人。吾岡保育所の誕生で百二十人の定員増になったものの、年ごとに入所希望者が増え、今年も保育所の収容定員からみるとたいぶんオーバーという状態だ。

園の入所基準は、二歳児以上で保育に欠ける児童を措置する——お母さんが登壇家事以外の仕事をしたり、病気で休んでいたり、お母さんがいない家庭などで、お母さんにかわって子どもをみる人がいない家庭に限り入所することができるとしている。このことになっているものの、核家族化や共働らきの家庭が多くなったこと、小さい頃から集団の生活にならしたい小学校に入る前にはどうしても保育所、または幼稚園にいかせたいという希望が多い。

とくに大徳寺・後免周辺については人口急増などもあって施設が追いつかない状態だ。

そこで、吾岡保育所が入所難の“救世主”といったところ。小学校のように、校区といったものはないが、南国バイパスが東西に走り、大徳地区を真二つにしているところから交通事故などの心配もあって「できれば南国バイパスから南側の児童は吾岡保育所、北側は大徳保育所」と、入所の申し込みをとったところ、若干のアンバランスが出て、大徳保育所が定員オーバーになっている。市では、できれば吾岡保育所にかわってもらうなどとして、落ちこぼれないようにしたい」と話している。

## 私立吾岡保育所 (大浦)



建設のすすんでいた吾岡保育所は近く完成。四月から児童百二十人が入所する見込みだ。大徳地区は人口急増などで、毎年入所難にあっていたもので、救世主・現われると、市民から喜ばれている。

「パー」という状態だ。